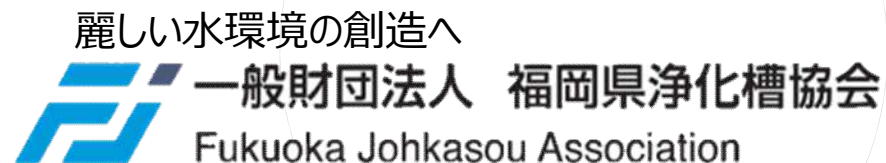
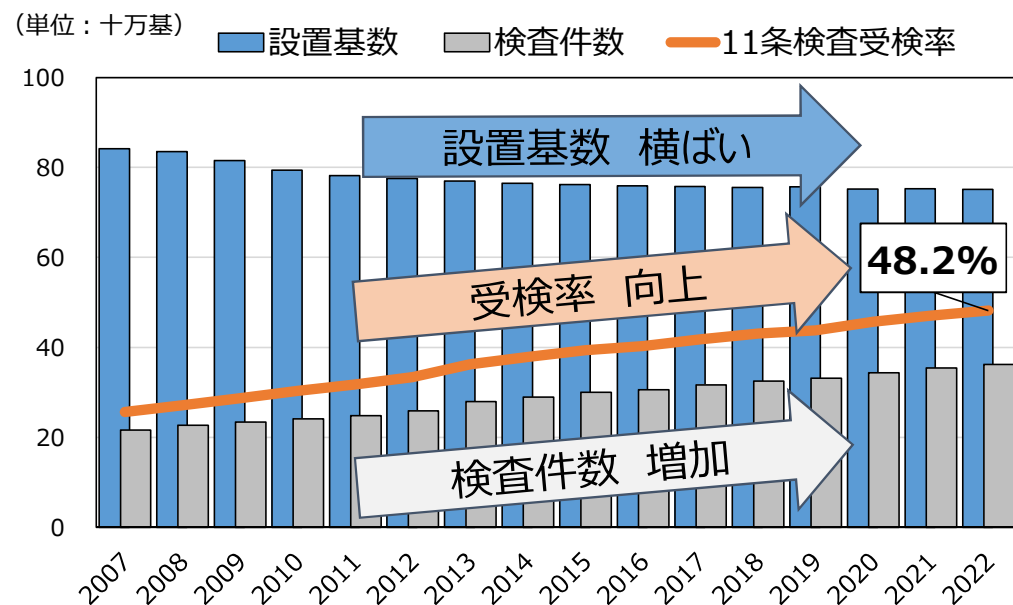


指定検査機関における 生産性向上の取組事例と 効果について

○ 与古光 千夏子 平田 彰宏 萩原 広大

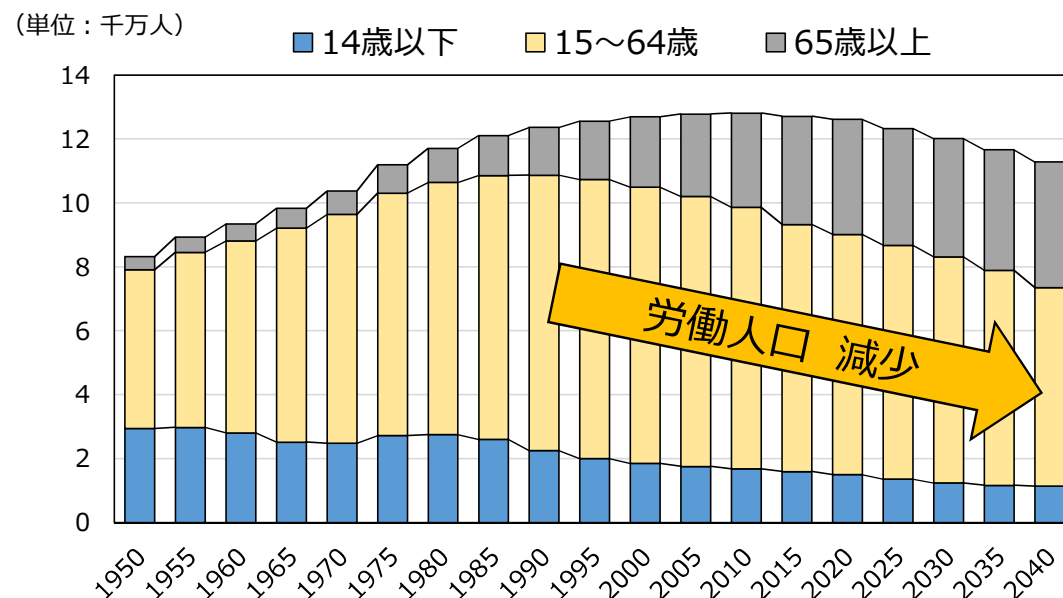


1.はじめに 浄化槽をとりまく全国的な課題



業務量増加

- ✓ 検査件数増加
- ✓ 新たな役割 (台帳整備、合併転換、災害対応など)

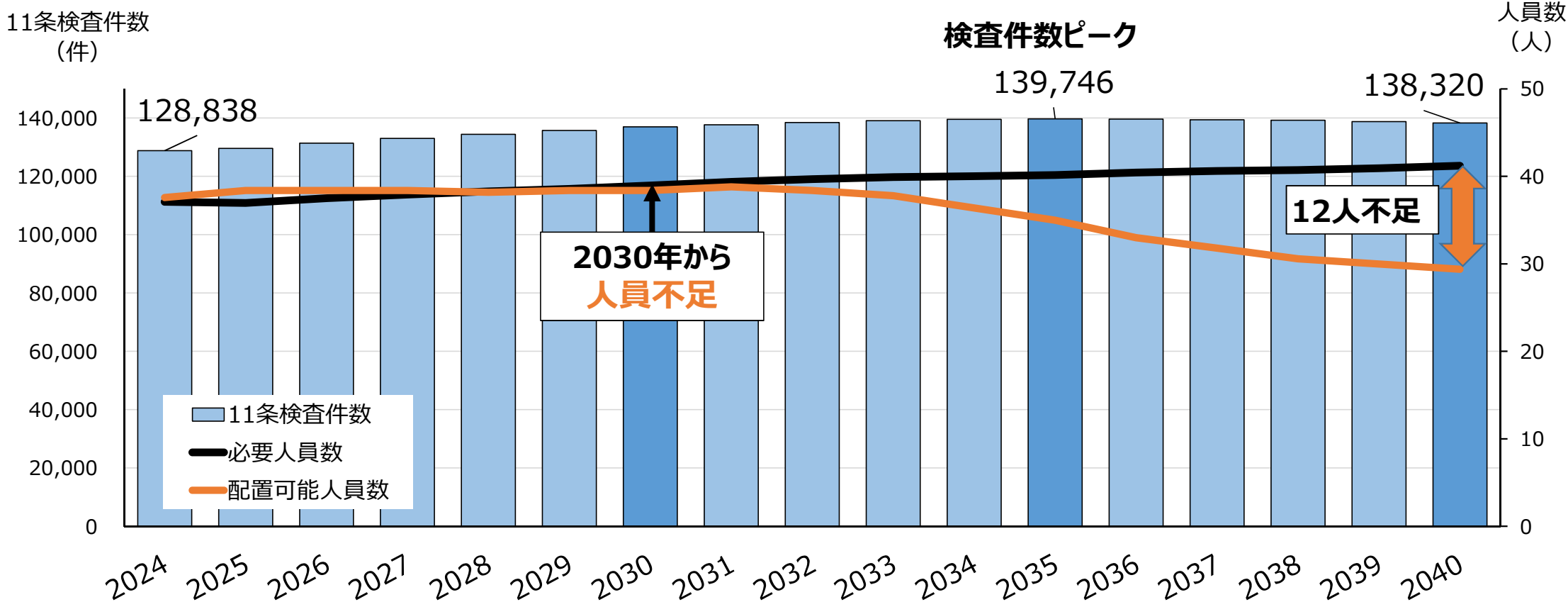


労働人口減少

日本では2040年に
1,100万人の労働力不足

適切に役割を果たし、社会に貢献し続けていくためには「**生産性の向上**」が重要

2.当協会における「生産性向上」の必要性



当協会の課題 「人材確保」、「働き方改革」、「生産性の向上」

3.生産性の評価指標と労働生産性の推移

(1) 生産性の評価指標

生産性とは
生産要素を投入することで得られる生産物との相対的な割合

今回の報告での考え方

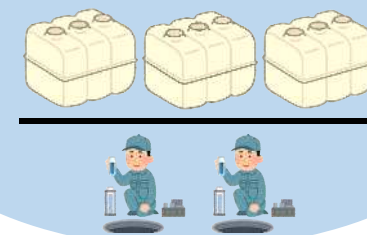
資源投入量（時間）に対する産出量（件数）の割合

$$\text{生産性} = \frac{\text{産出量}}{\text{投入量}} = \frac{\text{法定検査実施数(件/年)}※1}{\text{総労働時間(時間/年)}※2}$$

※1 7条検査と11条検査の実施件数の合計

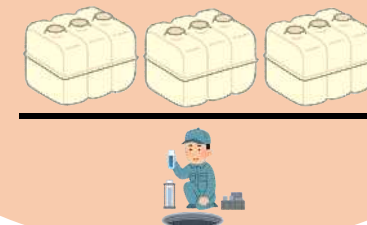
※2 時間外勤務時間を含む総労働時間

3件を2人で検査



生産性 2倍

3件を1人で検査

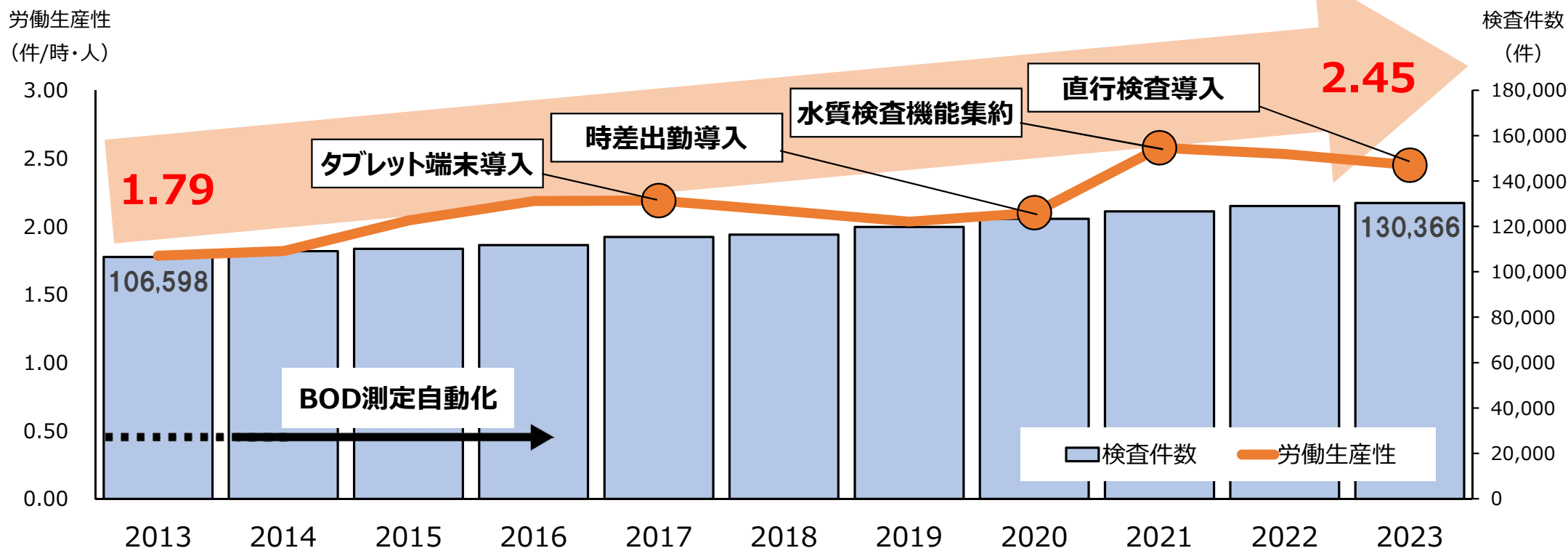


生産性 = 検査員 1人1時間当たりの検査件数

3.生産性の評価指標と労働生産性の推移

(2) 労働生産性の推移

生産性36.9%向上



さまざまな業務改善策により、総労働時間を抑制し **生産性向上**

4.当協会における業務改善の取組

ステージ	取組事例		取組の効果			
			業務の効率化	検査の質向上	環境負荷低減	働き方改革
体制整備	組織改編	水質検査機能の集約（センター統合）	○		○	
	システム導入	タブレット端末の導入	○	○	○	
		水質検査の自動化	○	○	○	○
人材創出	勤務形態の改善	時差出勤の導入	○			○
		直行検査の導入	○		○	○
	マニュアル整備 研修	人材育成（職員研修の実施）	○	○		
		作業手順の標準化	○	○		
		精度管理の実施	○	○		
取組の評価	SDGs、EA21の評価法活用		○		○	○

幅広い視点から生産性向上に取り組むことで **複数の課題解決** につながる

5.労働生産性を指標とした業務改善策の効果

水質検査機能の集約

取組前

福岡検査センター



筑後検査センター



取組後



機能統合



業務の
効率化

環境負
荷低減

検査の
質向上

働き方
改革

生産性 35%



タブレット端末の導入

取組前

手書き



現場検査



結果入力



結果書

取組後



タブレット

精度向上、業務効率化



結果書

業務の
効率化

環境負
荷低減

検査の
質向上

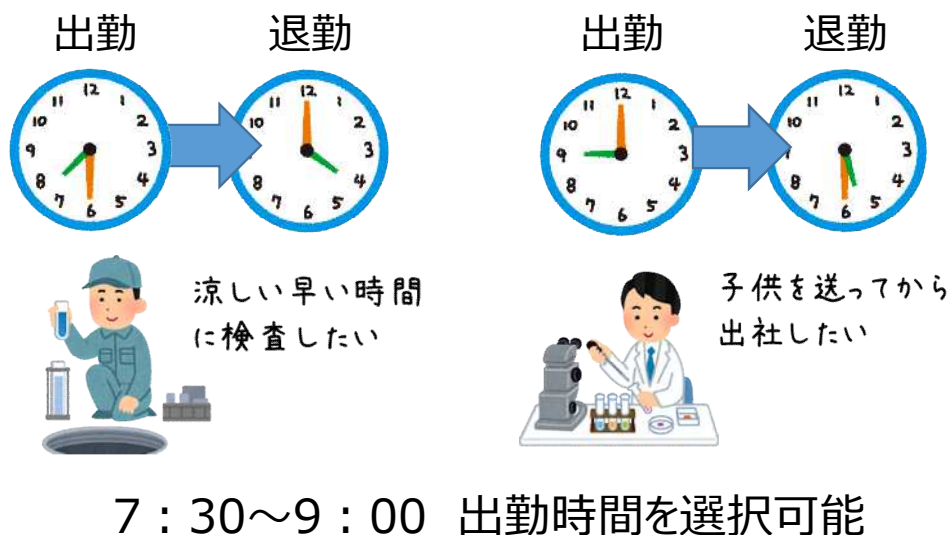
働き方
改革

生産性 7%



5.労働生産性を指標とした業務改善策の効果

時差出勤の導入



業務の
効率化

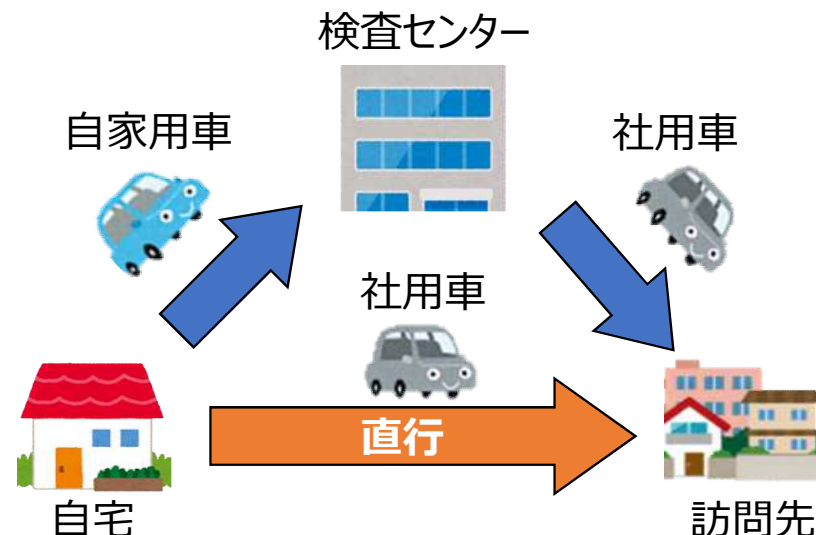
環境負
荷低減

検査の
質向上

働き方
改革

生産性 1.6%

直行検査の導入



業務の
効率化

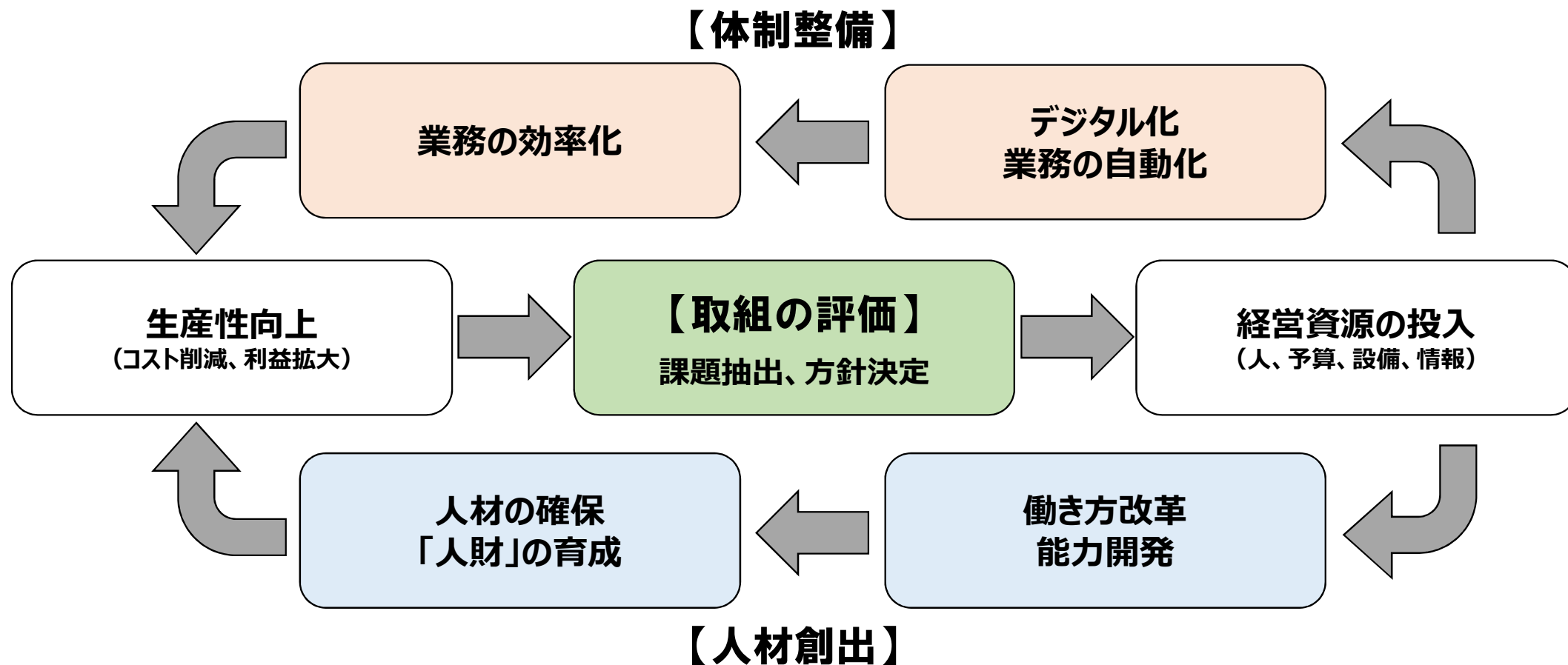
環境負
荷低減

検査の
質向上

働き方
改革

生産性 0.3%

6. 今後の展望



生産性向上 と ウェル・ビーイングの推進

7.おわりに 指定検査機関の課題

- ✓ 経済性の高さ
- ✓ レジリエンスの高さ
- ✓ 污水处理概成への貢献

計画的な施設整備

浄化槽への期待の高まり

信頼性の高い污水处理システム

- ✓ 法定検査 受検率向上
- ✓ 保守点検 実施率向上
- ✓ 清掃 実施率向上

維持管理の徹底

指定検査機関の課題

リソース
DOWN

労働力不足

- ✓ 生産年齢人口減少
- ✓ 大量定年退職
- ✓ 人材流出

検査業務

- ✓ 受検率向上
- ✓ 信頼性確保

新たな役割

- ✓ 台帳整備
- ✓ 合併転換
- ✓ 災害対策など

業務量
UP

十分な サービスを提供できなくなる 可能性

7.おわりに

浄化槽が信頼ある総合的な水処理システムとして地域の暮らしと環境を守り続ける

- ✓ バックキャスティング思考
- ✓ 「あるべき姿」を描く
- ✓ 浄化槽関係者間で情報を共有
- ✓ 戦略的に生産性向上

